☆8 日目（7 月 3 日）：八雲から江差まで

行程地図（8 日目）_記録 OLYMPUS TOUGH TG-6

旅も 8 日目、早朝出発で夕刻のんびりする生活パターンが定着してきた。今日も、早朝に登る朝日を見ての出発。国道 5 を南下、朝靄の中海の上にうっすら駒ヶ岳が見えた。

写真 328．朝日に向かって出発

写真 329．朝靄に煙る駒ヶ岳

まずは函館本線「森」駅に立ち寄った。ここは、43 年前のツーリングで、メンバーの森君が来たいと言って寄った駅。駅舎はガラッと変わってしまっていた。時の流れを感じた。

写真 330．函館本線　森駅

写真 331．43 年前の森駅

それから、駒ヶ岳を右手に見ながら回り込み、「道の駅 しかべ間歇泉公園」に着いた。ここは、間欠泉がある温泉の道の駅。間欠泉は有料で塀に囲われていて、早朝の時間外に見るすべはなかった。別府と同じで温泉の蒸気を使った温泉蒸し調理が出来る施設がある。そのせいか、車中泊の旅人が多かった。

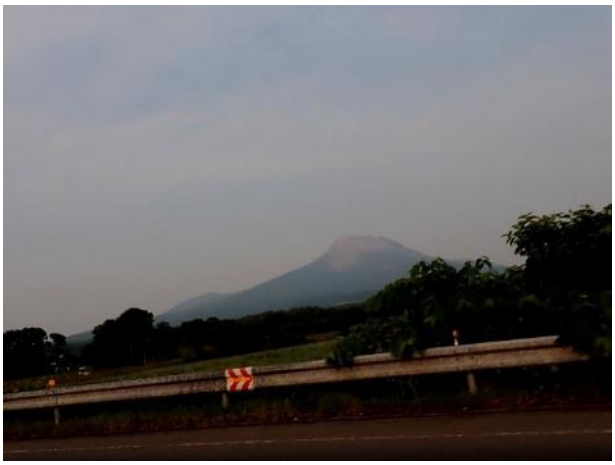

写真 332．駒ヶ岳

写真 333．道の駅 しかべ間歇泉公園

写真 334．間欠泉の入り口

写真 335．温泉蒸し処

写真 336．タイマー付き蒸し器

写真 337．鹿部町はタラコなど名物が豊富

そのまま南下して、亀田半島に向かう。この辺も、昆布漁が盛んで、昆布を干している小屋がいくつもあった。半島に入ると恵山が見えてくる。半島を時計回りに回ると、水無海浜温泉まで行くことが出来る。良くある干潮時だけに入れる海の温泉である。丁度引き潮で湯船が出ていたので、手だけ入れてみたら暖かかったが、夏以外は寒いかも。脇に脱衣所が用意されている。早朝のせいか、誰も入っていなかった。

写真 338．昆布乾燥小屋

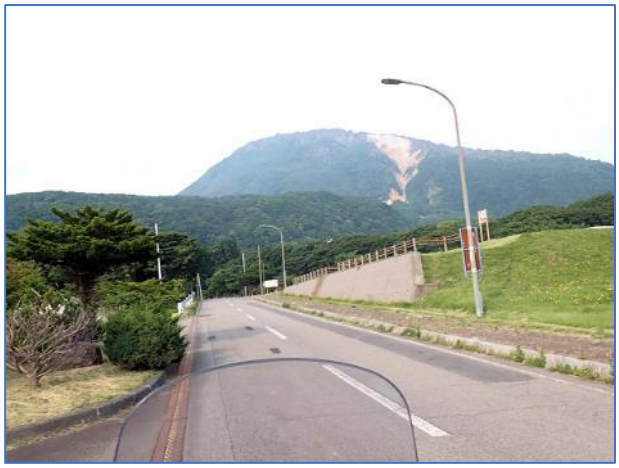

写真 339．亀田半島の恵山

写真 340．水無海浜温泉の説明板

写真 341．海の浴槽

写真 342．水無海浜温泉全景

道はここで終わって進めないので国道 278 まで戻り。半島の南側を何処まで行けるか走ってみた。結局恵山漁港を過ぎて程なく行き止まりとなった。亀田半島は一周できないことが確認できた。この恵山岬と青森の尻屋崎を結んだ線が太平洋と日本海の境目とされている。

写真 343．恵山漁港辺り

写真 344．道道 635 の終点

国道 278 まで引き返し、函館へと向かう。途中、「道の駅　なとわ・えさん」に立ち寄るも、用がないので先に進む。

写真 345．函館が見えてきた

写真 346．道の駅　なとわ・えさん

函館市街地に入ると、路面電車の停留所があった。久しぶりに見た気がした。また後で路面電車は見れるだろう。市街地を通り抜けてまずは立待岬に向かう。森昌子の演歌で知った岬だ。♪「待って待って、待ちわびて立待岬の花になろうと～」。

写真 347．路面電車の停留所

写真 348．立待岬駐車場

写真 349．立待岬の碑

写真 350．柵に「イカ」がいた

写真 351．　烏も立待ち？

写真 352．バイクも立待ち？

立待岬の次は、夜景で有名な函館山に行く。朝だけど仕方ない。山道を登って函館山のテレビ送信所や展望台まで行く。良く夜景の写真で見る函館の町、昼見ても形は同じなので少し感動した。

写真 353.　函館山の碑

写真 354．函館山のテレビ送信所

写真 355.　函館湾を望む

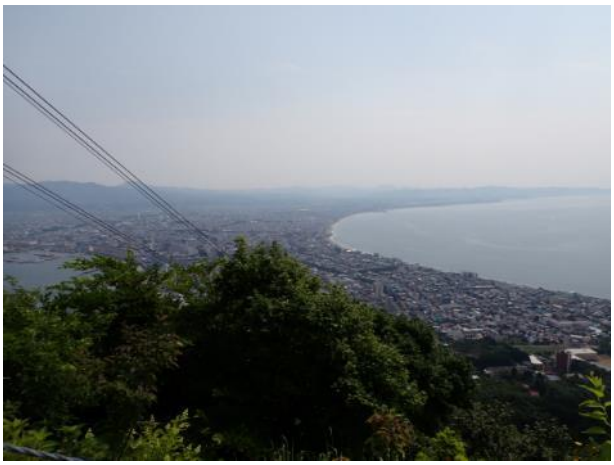

写真 356．よく見る函館山の風景

函館山見学が終わって、函館の町に下っていった。メインストリートは路面電車が走っている。軌道敷走る路面電車をみると、地方都市に来た感じがする。ちょっと懐かしい感じも。

写真 357.　函館へ下る道

写真 358．路面電車

北斗市では、海に長い桟橋が見えた。道路をまたいで太平洋セメントの工場と繋がっていた。遠浅でそこまで伸ばさないと船にセメントを詰め込めないのだろうか？

写真 359.　長い桟橋が伸びている

写真 360．工場と繋がる桟橋

津軽海峡沿いに南下をすると、サラキ岬がある。ここは、咸臨丸が沈んだ終焉の地とされていて、船のモニュメントや記念碑などが建っている。草原は、丁度黄色いタンポポの花が満開できれいだった。

写真 361.　咸臨丸のモニュメント

写真 362．咸臨丸終焉の地

写真 363．海を挟んで本州が見える

写真 364．タンポポとアフリカツイン

国道 228 を進むと、知内町で内陸側に入り、「道の駅　しりうち」に着く。ここは、北海道新幹線の青函トンネルの北海道側の出入り口が有る町で、道の駅には「新幹線展望塔」が用意されている。運良く「はやぶさ 22 号」が青函トンネルに入っていくところが見れた。

写真 365．道の駅　しりうち

写真 366．新幹線展望塔

写真 367．青函トンネルの入り口が見える

写真 368．はやぶさ 22 号通過

引き続き国道 228 を進むと、再び海岸の町にでる。ここ福島町は、青函トンネルの工事基地があったので、トンネル開通前から設立された「青函トンネル記念館」と、福島町出身の有名力士の「横綱千代の山・千代の富士記念館」がある。2 館セットで少し入場料が安くなる。

写真 369．福島町記念館割引券

青函トンネルの方は、いまは第二青函トンネルを実現するための情宣活動に力を入れていて、第二青函トンネル構想を知らなかった私が周知したと言うことは、宣伝の成果が少しでも有った事になる。あとは、トンネルのモデルや青函連絡船のモデルなどが展示されていた。

写真 370．青函トンネル記念館

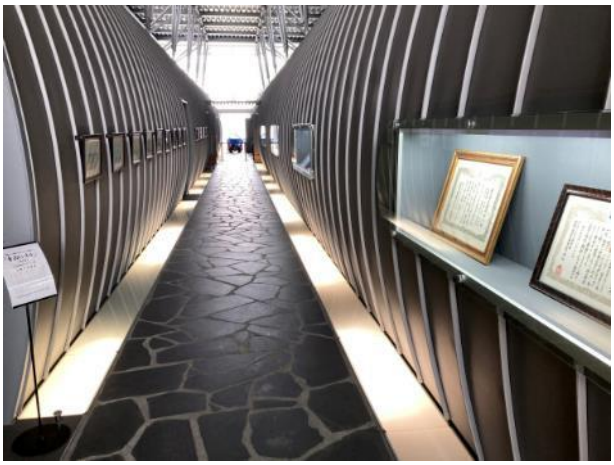

写真 371．トンネルモデルの通路

写真 372．今は無き吉岡海底駅の表示板

写真 373．様々な青函連絡船のモデル

「青函トンネル記念館」から 700m位離れた所に「道の駅 横綱の里・ふくしま」があり、そこに隣接して横綱の記念館がある。私は、千代の富士のファンだったので、当時の勇姿が甦るいい記念館だった。

写真 374．道の駅 横綱の里・ふくしま

写真 375．横綱千代の山・千代の富士記念館

曇ってきたが引き続き国道 228 を津軽海峡越しに津軽半島を見ながら進むと、松前半島の南端、すなわち北海道最南端の白神岬に到着した。これで北海道の突端は、最西端を残すのみとなった

写真 376．津軽半島を望む

写真 377．北海道最南端白神岬

少し進むと、白神岬灯台や鉄道遺構の松前線「櫃ノ下橋梁の橋脚」が見えてきた。

写真 378．白神岬灯台

写真 379．櫃ノ下橋梁跡の橋脚

「道の駅　北前船松前」に寄って、昼食に「本マグロ山かけ丼」1,700 円を海を見ながら食べた。

写真 380．弁天島を臨む

写真 381．本マグロ山かけ丼

松前城の近くまで行き、外から見学してから、江差に向かった。途中、松前小島が見えた。

写真 382．松前城

写真 383．松前小島

一雨来そうなので、途中の「道の駅　上ノ国もんじゅ」で、お土産の木彫り熊マグネットだけ買って、先に進んだ。

写真 384．道の駅　上ノ国もんじゅ駐車場

写真 385．道の駅　上ノ国もんじゅ

遠くに、江差町のシンボル「開陽丸」が見えてきた。雨が降る前に急いで見学して、本日の宿「旅籠　橋本屋」に向かった。

橋本屋では、バイクを屋根のあるスペースに停めさせて貰った。

写真 386．開陽丸が見えてきた

写真 387．海の駅　開陽丸

写真 388．開陽丸

写真 389．橋本屋の駐輪スペース

雨がぱらついてきたので、宿にバイクを置いて、江差町見物にでた。江戸時代に鰊の北前船交易で栄えた町なので、当時の大きな建物が並ぶ「いにしえ街道」は、面白かった。

写真 390．いにしえ街道(1)

写真 391．いにしえ街道(2)

写真 392．いにしえ街道(3)

写真 393．いにしえ街道(4)

写真 394．江差横山家

写真 395．江差横山家裏

江差でもう一つ有名な江差追分の「江差追分会館」を通ってきたが、中は見学しなかった。宿に戻ってから、目星を付けていたレストランに行ったら、本日は予約者のみの受け入れとのこと。仕方なく、ネットで評判の悪くない近くの「つるみ食堂」に行った。メニューが豊富すぎて選ぶのに迷ったが、「唐揚げおろしたれかけ定食」1,100 円を注文した。小鉢が沢山付いて、味もボリュームも満足だった。

宿の橋本屋は、ゲストハウスで二階に共同の食堂やシャワーがある。予約では 2 階の 4 人部屋を一人で使用するようになっていたが、1 階の一人部屋が空いたから変えてもいいとのことだったので、静かそうな 1 階にした。まだ新しい建物なのか、建材の匂いが残っていたのが残念。

写真 396．江差追分会館

写真 397．つるみ食堂

写真 398．唐揚げおろしたれかけ定食

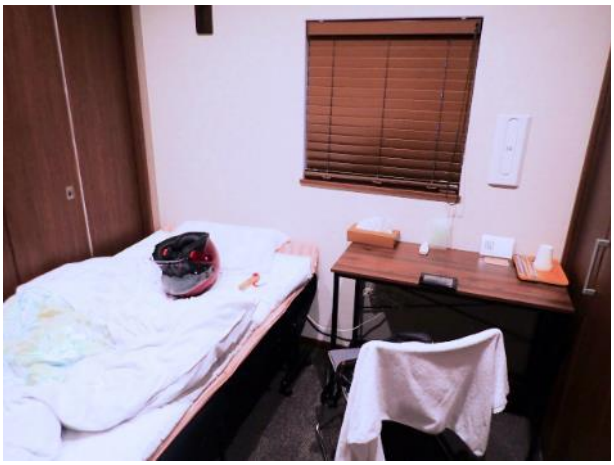

写真 399．橋本屋客室

ここまで、家を出て 2,800 キロを越えた。明日も頑張ろう。

写真 400．ODO=2,832.6km